

第 125 回結晶工学分科会研究会 (2006)
実験研究者のための計算機実験
: 実験屋のツールになりうるか?

◆日時 : 2006 年 8 月 2 日 (水) 10:00~16:45

◆場所 : 大阪産業創造館

プログラム

- 1) ワイドギャップ半導体のマテリアルデザインと CMD-RTN.....1
吉田 博 (大阪大学)

 - 2) ナノシリコンデバイスの材料設計、物性予測、機能設計と文部科学省
ITプログラムの取り組み.....9
大野隆央 (物質・材料研究機構)

 - 3) ソフトウェアメーカーの取り組み例.....17
宇田 毅, 宇佐見護, 山本武範, 甲賀淳一郎 (アドバンスソフト)

 - 4) ULSI 材料の TEM-EELS 分析と電子構造計算.....23
五十嵐信行 (NEC)

 - 5) 電子部品メーカーにおける強誘電体材料研究への第一原理計算の
活用.....31
森分博紀 (ファインセラミックスセンター)

 - 6) パソコン計算でどこまで物性が予測(説明)できる?
表面科学から物質科学まで.....39
田畑 仁 (大阪大学)

 - 7) 気相成長の熱力学解析: 計算結果の実験への適用.....51
瀧瀬明伯 (東京農工大学)

 - 8) 材料開発に第一原理計算は役立つか?
~ 第一原理計算を用いた非鉛系強誘電体 $ANbO_3$ ($A = Li, Na, K$)に関する研究 ~...65
繁實章夫, 和田隆博 (龍谷大学)
-